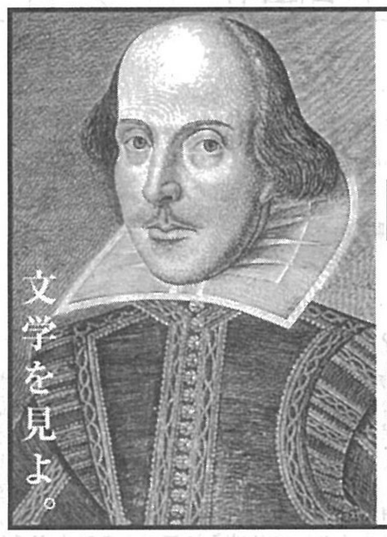

日本初のビジュアル文学大百科が、毎週やってくる。
週間分冊・A4変形判中綴じ
オールカラー36ページ・全121冊

毎週火曜日発売

定価 560円（税込）

週刊朝日百科 世界の文学

お手元までASA（朝日新聞販売所）がお届けします。
お申込みは、お電話でどうぞ。

朝日 Voice2 街の情報紙

1999年（平成11年）毎週月曜日発行（第5月曜日休刊）

11月8日（月） 第5号

企画・編集・発行／週刊朝日ボイス編集室　発行人／佐藤由美子
〒963-0724　郡山市田村町上行合字西川原81　☎024-956-0039　FAX944-5594
ホームページ　http://king.multi.ne.jp/voice/　Eメール　voice@ht-net21.ne.jp
協力／朝日新聞社・ASA・福島西部朝日会・日刊スポーツ新聞社・KFB福島放送

朝日新聞を購読すると「週刊朝日Voice２」がもれなくついてきます。ボイス２は毎週月曜日発行、購読お申込みは下記のASA朝日新聞販売所へどうぞ!!

ボイス配布協力店・ご購読申し込みはASAへ

●郡山西部	TEL024-922-2734	●郡山北部	TEL024-932-1178
●郡山南部	TEL024-945-0374＆TEL024-946-1464		
●郡山東部	TEL024-944-0051	●郡山開成	TEL024-932-4127
●富久山	TEL024-932-2798	●富田	TEL024-922-6133
●守山	TEL024-955-2013	●喜久田	TEL024-959-2106
●日和田	TEL024-958-2641	●磐梯熱海	TEL024-984-3621
●須賀川西部	TEL0248-75-3721	●須賀川東部	TEL0248-76-8158
●白河	TEL0248-23-3373	●矢吹	TEL0248-42-3231
●二本松	TEL0243-22-0621	●本宮	TEL0243-34-2033
●三春	TEL0247-62-2264	●石川	TEL0247-26-1481
●常葉	TEL0247-77-2244	●福島西部朝日会	TEL024-939-2728

スポーツヒューマン 我ら WARERA Sport Human

一つのことをやりとげる強さを教えてあげたい

小学生を中心に毎週1回空手の練習を行っているのが長沼町の空手スポーツ少年団である。地域の子供たちの体力づくりと人間形成を目的に空手少年団を始められた会長の和田光一さんにこれまでの経緯や子供たちについてお話を伺った

空手の基本を第一に指導

和田さんが空手スポーツ少年団を作ろうと思い立ったのは今から7年前のこと。「長沼町には剣道の少年団しかなかったのでぜひ空手少年団を作ろうと思ったんです。でも私は空手団体には所属していないので始めるには指導してくれる師範や練習場を捜さなければなりませんでした。」

そこで和田さんは団体に所属している師範を捜すことになったがなかなかいい人が見つからない。そんな時に和田さんの願いを受け止めてくれたのが空手の師範をしていたいわき市の加山成久さんと須賀川市の石井好文さんだった。

二人の師範の参加で少年団の結成も具体化し、練習場も長沼中学校の体育館を利用することに決まった。約1年の準備期間を経て平成6年に空手スポーツ少年団がスタートした。

「はじめはなかなか集まらなくて8人くらいだったですね。父兄の皆さんに徐々にご理解いただくようになって、ここまで来ることができました。」とこれまでの道のりを感慨深く振り返る和田さん。

空手スポーツ少年団では空手の基本を第一に練習を行いながら子供達の体力づくりに取り組んでいる。

子供が空手を学ぶには特定の流派の団体に参加するのが普通だが和田さんは流派にはこだわらず空手の基礎とスポーツとしての楽しさを学ぶ場として指導に務めている。現在少年団には幼稚園から高校まで女の子4名を含む26名の団員が在籍している。

「小林悟君という子は小学6年生ですが、ここに来たときは幼稚園児でした。今は団員のなかで一番上の2級（茶帯）を持っていて、率先して練習に励んでくれています」

空手少年団では日頃の練習の成果を形として残してあげようと昇級試験を子供達に受けるよう指導しているが試験を受けるか受けないかは子供達の自主性に任せている。一人一人とじっくり話をして決して無理強いさせないあたりも今の子供達への配慮なのだろう。団員の良き相談相手になることも和田さんの大事な仕事の一つだ。

昇級試験は石井さんの所属団体である芦原会館の許可を得て同会館の会津支部で実施されている。

時には厳しく時には優しく

最近新しい団員も加入し練習にも活気がみなぎる少年団だが和田さんには一つだけ悩みがある。

「これまで50名以上の子供達が少年団で一緒に空手を学んでいますが、多くの子は中学に入ると部活との兼ね合いもあって辞めてしまうんです。ようやく空手の基本を覚えた時期なので私としてはとても残念なんです。」

少し寂しそうに語る和田さんではあるが、練習では小さな子供達を相手に時には厳しく時にはやさしく父親のように指導に当たっている。そんな和田さんに子供達への思いを語っていただいた。

「からだを鍛えるための運動として少しづつ身についていけばいいと思っています。やりとげられることを一つでも教えてあげられればうれしいですね。」

現在少年団の指導は石井さんと和田さんのお二人で行っている。これからもたくさんの子供達が空手を通してスポーツのおもしろさ、厳しさを学んでいくに違いない。

空手スポーツ少年団（岩瀬郡長沼町）

指導する石井さんと子供たち

空手少年団の練習は人とのふれあいを学ぶ大切な場

長沼中学校での練習は毎週土曜日の夜7時から約1時間半途中休憩を入れながら行われる。

一堂正座してのあいさつに続きまずはからだをほぐすための柔軟運動からスタート。足首から膝、腰、背筋と石井さんにならって入念に行う。次は空手の基礎となる打ち方や蹴りの練習だ。石井さんの大きなかけ声に従い子供達が一斉に拳をつく。

石井さんはそんな一人一人の動きを見ながら、やさしい言葉でわかりやすく指導する。

後半は上級者と新しく入った子たちに分かれての練習。上級者は石井さんの前で一人一人「型」を披露するがこちらはさすがに慣れたものか空手の連続技を決める姿は堂に入っている。型とは相手がいるつもりで連続した技を覚えるもの。昇級試験では型の善し悪しが大きなポイントになるため子供達も真剣だ。

子供達に練習について聞いてみると、「むずかしいけど技ができるとうれしい」「黒帯になるまでやりたいです」と元気な声が返ってきた。まだまだ無邪気な子供達だが遊び感覚で空手を楽しんでいるようだ。

「子供達が大人や年上の子たちとふれあう大切な場にもなっていますね」とは石井さん。体力づくりだけでなく空手は人間形成にも大いに役だっていることを実感した。

（N・O）

和田さん（右）と石井さん（左）

長沼町空手スポーツ少年団（長沼町体育協会加盟）
連絡先　和田光一　0248-67-2827